

## 令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・文章の内容を読み取る力は説明的・文学的とも力が伸びているので、話し合い活動で自分と違うものの見方に気づかせ考えを深め、活用力を高めている。
- ・ムーブノートやスクールタクトを活用し、互いに刺激を与えあい、文章力を磨いた。

#### (2) 課題

- ・文法事項や語句の繰り返し学習を増やして、基礎力として定着を目指す。
- ・主体的に学ぶ力をより伸ばすため、発問やワークシートを工夫し、二極化を防ぐ。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎・活用とも平均正答率は目標値を上回っているが、区全国平均正答率を上回ることはできなかった。文学的文章の読み取りの他は、内容別正答率が区全国平均に届かなかった。 目標値+2.4 区-1.8 全国-2.6	/	/
第2学年	活用力は目標値・区全国平均とも上回ったが、基礎力が二極化した。文法・語句▼ 言葉の特徴や使い方▼ 言語文化▼ 観点別知識・技能 全国-4.2	基礎・活用とも目標値・全国平均を上回っている。内容別正答率では、文法語句に関する事項がわずかに全国平均に届かなかった。(第1学年時)	/
第3学年	基礎・活用とも目標値・全国平均正答率を上回っている。我が国の言語文化に関する事項のみ▼それ以外の部分は目標値と全校平均正答率を超えている。(第3学年時)	基礎・活用とも目標値・全国平均正答率を上回っている。漢字の読み書きの問題では1問ずつ目標値に届かないものがあった。無回答の生徒が2割程いる。(第2学年時)	目標値・全国平均・内容別正答率ともに大体が上回った。以下内容向上が期待される。話すこと・聞くこと▼ 話の内容を聞き取る▼ (第1学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書き、文法・語句において二極化している。特に文法分野の連用修飾語は定着が不十分であるため復習を要する。	文章の読解力に関しては、話の構成や内容、心情を捉えることはできている。文章を書く力は不十分である。	記述の問題になると書くことに抵抗があるようだ。苦手意識をもっていることが要因であると考えられる。

## ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能の観点で、文節の区切りと漢字の語彙力に二極化が見られる。特に補助の関係は復習を要する。	文章の読解力や書く力はついている。昨年少し伸び悩んだ「二段落構成で書く」は正答率が高くなった。	問題に真摯に取り組もうとしている生徒が多い。

## ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読みの問題で大幅に差が開いている問題がある。現代仮名遣いの問題と類義語の問題も正答率が低い。	読解力はあるが、説明文の文章全体と部分の関係を理解できていないようである。	問題を読んで解こうという気持ちをもっている生徒が多い。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項を漢字練習ノートや文法テキスト・資料集を活用して、漢字・語句を復習していく。また、小テストを実施して知識を定着させていく。	自分の考えを言語化して、それを意見交流することによって読みを深めさせる。また、ワークシートを工夫して、自分の考えを書く時の基本的な技術を養成していく。	授業規律を確立し、課題に皆で取り組む雰囲気や、自分の考えを共有することができる雰囲気づくりを心がける。国語に苦手意識をもつことのないような授業を工夫していく。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項を漢字ノートや文法テキスト等を使用し繰り返し復習していく。暗唱に取り組ませ、古文に親しませる。さまざまな文章に触れる。	ワークシートを工夫し、自分の考えを書き、人と話し合っただろう視点に気づく機会を増やし、思考力を高めしていく。表現のパターンを知る。	授業規律を確立し、目の前のことに真剣に取り組むと自分の力が伸びる達成感を味わわせていく。提出状況や暗唱進行度を個人面談する。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字ノートを使用して、定期的に漢字テストを実施する。文法などは何度も繰り返し復習をしていく。古文も同様に復習も兼ねてリズムで覚えられるように声に出して学習を進める。	全体を読んでいる段階でどの部分が重要なのかを自分で読解できるよう力を身につけられる授業を心がける。自分の考えを言語化し、周りとの意見交換することで更に自分の考えを深められるようにする。	自分で考える雰囲気作りを努める。自分の考えを深めるために人と会話をする時間を設けるようにしていく。国語を好きでいてくれるよう楽しい授業を行う。

## 令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・興味関心を持たせる教材や発問を意識することで、考える力を高め、知識の習得や考察力の向上につながった。
- ・ICTの活用を積極的に行うことで、資料活用や思考力の向上に一定の効果があった。

#### (2) 課題

- ・定期的にグループワークを行い、生徒同士の意見交換を行っているが、ICTの活用により、さらに積極的に行っていく必要がある。
- ・社会科に苦手意識のある生徒に対しての個別の対応や配慮が行き届かず、学力の二極化という課題が残った。
- ・高学年になるほど、低学年時の学習内容の正答率が悪くなっている。家庭学習を含め学習習慣の定着を図っていく必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	区平均正答率に分野ごとに差がでてしまった。「我が国の政治」以外は目標値をわずかに下回った。	/	/
第2学年	地理・歴史分野の中ですべての分野において区平均正答率を上回っている。しかし、全国と比較するとどの分野も数値が下回っている。	区平均正答率に分野ごとに差がでてしまった。特に「我が国の農業や水産業」は目標値を大幅に下回った。	/
第3学年	多くの分野で目標値を上回っており、学習内容が定着している。しかし、明治以降は苦手な生徒が多いようである。	地理・歴史分野の中で「中世の日本」以外の分野は区平均正答率を下回っている。1年生において重点的に授業改善が必要な結果となった。	地理・歴史分野ともに正答率が区・全国の平均値を上回っている。特に政治分野の「我が国の歴史」、「日本国憲法」の正答率が高い。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに下回った。	目標値をわずかに下回った。	目標値をわずかに下回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに上回ることができた。	目標値をわずかに上回ることができた。	目標値をわずかに上回ることができた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回ることができた。	目標値を上回ることができた。	目標値を上回ることができた。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書に載っている基礎的な用語の理解を深め、小テストなどを通して知識を獲得する。また、資料集や地図帳を丁寧に活用する。	他の意見と自分の意見を比較することでこの観点の力を伸ばしていきたい。また、ICTの活用を通して、クラス内での情報共有をより積極的に行っていきたい。	分野ごとに自己評価や相互評価を行わせることで、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を習得できていない生徒も一定数おり、反復練習を行ってほしい。また、資料の比較や活用の場面を多く作ってほしい。	生徒に考えさせる資料や興味を持たせる発問を心がけるとともに、ICTを活用することでより深い学びにつなげてほしい。	日頃から新聞やニュースなどに関心を持たせ、自分の考えを発表する機会や場면을模索することで、学ぶ意欲を継続的に高めてほしい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を習得できている生徒が多いことから、それらの知識を活用して、「思考・判断・表現」などの他の観点の伸長につなげる。	話し合い活動や ICT を活用することで、自分の考えだけでなく、他者の考えを理解し、発展的な考えを構築する授業を展開していく。	単元ごとにまとめを行うことで主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

(様式例)

## 令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 2学年、3学年で全国正答率を全項目で上回ることができた。
- ・ 定期考査では極端に低い生徒の割合は昨年度よりも低くなっている。

#### (2) 課題

- ・ 全学年ともに「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の観点が低くなっている。
- ・ 定期考査でも「思考・判断・表現」の得点状況が良くない状況にある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全国正答率と比較すると正答率は1.8ポイント低かった。		
第2学年	全国正答率と比較すると正答率は6ポイント程度高かった。	全国正答率と比較すると正答率は2ポイント程度高かった。	
第3学年	全国正答率と比較すると、正答率は3.3ポイント高かった。	全国正答率と比較すると、正答率は3.8ポイント高かった。	全国正答率と比較すると、正答率は6ポイント以上高かった。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率は2.3ポイント低かった。「数と計算」の文字式は全国平均と同程度であるが、それ以外の領域で全国平均を下回っている。	全国正答率と比較すると正答率は0.3ポイント低かった。「数と計算」の文字式は全国平均と同程度であるが、それ以外の領域で全国平均を下回っている。	全国正答率と比較すると正答率は同じだった。単位量あたりの大きさでは全国平均・目標値を上回る問題もあった。

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率は7.4ポイント程度高かった。計算で大きく全国平均を上回っている反面、関数で全国平均を下回っている問題もあった。	全国正答率と比較すると正答率は2.7ポイント程度高かった。しかし、図形やグラフの読み取りでは全国平均・目標値を下回る問題もあった。	全国正答率と比較すると正答率は4.5ポイント程度高かった。しかし、図形やグラフの読み取りでは全国平均・目標値を下回る問題もあった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率よりも3.2ポイントほど高かったが、図形で前年度より12.1ポイント下回る問題があった。	全国正答率よりも3.7ポイントほど高かったが、速さや道のりに関する連立方程式の問題では目標値よりも6ポイント低くなっていた。	全国正答率よりも3.2ポイントほど高かったが、前年度に比べると1.8ポイントの低下となっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算力の向上が必須である。適宜プリント等で練習機会を増やす。	習熟度別少人数授業を展開することで、能力に応じた事象を用いて少しずつ学力の向上を目指す。	習熟度別少人数授業を展開することで、それぞれのレベルに応じた学習内容にし、全員が同じ目標に向かって意見をもって考え、発言することができる環境をつくる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算に関しては引き続き行う。図形等に関しても繰り返し行い、基礎基本徹底を図る。	ただ単に伝えるのではなく、グラフや図形の目的や見方を伝える授業を心掛ける。習熟度に合わせた指導を意識する。	習熟度に合わせ、身近な事象をもとに考える課題を設定する。それぞれのレベルに合わせて助言を行い、積極的に意見交換や考えることができるような環境を作る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の基礎知識が抜けているところがあるので、復習する時間を設け、基礎基本の確認・再定着を図る	問題を構成している1つ1つの要素が、どのように設定され、組み合わせられているかを整理して考えさせる。その際、習熟度に合わせた指導を心がける。	習熟度に合わせた課題を設定し、既習事項を順序だてて考えるよう指導する。また、学びあいの時間を確保し、積極的に課題に取り組む環境づくりをする。

## 令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・2・3学年において、「思考・判断・表現」や「活用」で目標値をわずかに上回ることができた。昨年度全学年で、予想を立てて観察・実験を行い、結果から考察し、自分の言葉で表現する時間を設けたことが、科学的な思考力・表現力・判断力の育成につながっていると考えられる。

#### (2) 課題

- ・全学年で「知識・技能」の目標値を上回ることができなかった。確かな知識・技能を定着させるために、既習事項の復習の機会を設けたり、知識や技能の必要感をもたせる授業展開を工夫していく必要がある。
- ・全学年で解答形式が「短答」「記述」のものは目標値を上回ることができなかった。特に、1・2学年で課題が見られる。他者との対話の機会を増やして他者の考えや表現に触れたり、自らの言葉で説明する機会を設け、表現がよりよいものとなるようフィードバックを行っていく必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	観点別正答率では、すべての観点で目標値を下回った。領域別正答率では、「物質・エネルギー」「生命・地球」の両方で目標値を下回った。内容別正答率では、「大地のつくりと変化」は目標値を上回った。	/	/
第2学年	観点別正答率では、知識・技能は目標値を下回ったが、その他2つは目標値をわずかに上回った。領域別正答率では、「エネルギー」「粒子」は目標値を上回ったが、「生命」「地球」で目標値を下回った。	目標値に対して2つの観点別正答率、領域別正答率、問題の内容別正答率でトータル+0.9であった。ただし、生物関係の正答率の低さが合計のポイント数を押し下げている。 (第1学年時)	/
第3学年	観点別正答率では思考・判断・表現は目標値を上回ったが、その他2つでは下回った。領域別正答率では「生命」「地球」は目標値を上回ったが、「エネルギー」「粒子」では目標値を下回った。	観点別正答率では知識・技能は目標値と同じであったが、その他2つでは上回った。領域別正答率では「エネルギー」「生命」が▽だった。内容別正答率では、「動物の分類」「物質の状態」「光の性質」「力の性質」「火山」は▽、その他の7項目は△だった。(第2学年時)	目標値に対して3つの観点別正答率、領域別正答率、問題の内容別正答率で全ての項目で△であった。「水溶液の性質」は全国平均正答率より0.1ポイント▽であった。(第1学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「物の燃え方」についての問題は、すべてにおいて昨年度の達成率を下回っている。気体の性質についての知識が定着していない。一方で、顕微鏡の操作方法や植物の光合成については目標値を上回ることができた。	植物の実験の問題、水溶液の性質の問題が昨年度の達成率を大きく下回っている。基礎知識をもとに、実験条件を考えたり、結果を考察することに課題がある。	自ら考え、様々な方法で実験や観察に取り組んだり、話し合い活動では、自分の意見を積極的に発表したり意欲的に参加する生徒も多い。一方で、学んだことを振り返り、さらに深く掘り下げる力に課題がある。

## ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度の自校達成率と比較すると、グラフを作成する力は少しずつ伸びてきている。一方で、「生物」「地学」の分野の理科用語や基本的概念・原理・法則の理解に課題が見られる。	「エネルギー」については昨年度観察・実験を中心とした授業を進めた成果が見られる。一方で、解答形式が「記述式」の場合について、課題が見られる。また、モデル図などの活用にも課題がある。	自ら予想や仮説を立て、観察・実験を行ったり、仲間との対話を通して、課題を解決しようとする生徒が多い。一方で、自らを振り返り、学習を粘り強く調整する力に課題が見られる生徒もいる。

## ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グラフを作成する問いについて、昨年度の達成率から大きく数値が下がっている。どのクラスも解答類型を見てみると、プロットに誤りがある割合が非常に多く、正しく数値を打点することに課題がある。	観点別の正答率はほぼ横ばいであるが、「粒子」「エネルギー」分野における思考・判断・表現の観点に関する問いは前年度より校内正答率が1問を除き、すべて下がっていた。このことから、「粒子」「エネルギー」の学習内容の定着に課題がある。	話し合い活動では、相手の意見に耳を傾け、実験結果に対しての疑問や課題に対して意欲的に学ぶ姿勢を見せる生徒が多い。しかしながら、学習した内容を身近な事柄に結びつけて、さらに学習を深掘りする生徒が少ないと感じる。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本的な知識や技能の定着が多く分野で不足している。科学に関する概念や語句についての定着をはかるため、実験・観察を行いながら、全体的な知識・技能の定着を進める。	観察・実験において、仮説や考察を自分の言葉で考え、表現する時間を設ける。内容ごとに話し合い活動や調べ学習の時間を多く取り、さまざまな情報や意見に触れられるように支援する。	日常の中にある科学について内容ごとに取り上げ、理解することの楽しさや面白さを伝え、学んだことを生かしてさらに新しい課題を科学的に探求する学習活動の充実を図る。調べ学習や観察・実験等の協働する機会を増やし、できることを少しずつ増やしていけるように支援する。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項の復習の機会を設ける。知識が各分野・単元を超えてつながるような声かけや発問、学習の機会を増やし、知識を相互に関連づけてより深く理解できるよう支援する。	観察・実験を中心とした問題解決型学習を行う時間を設け、仮説を立て、一人一人が見通しをもち、結果をわかりやすくまとめ、結果から考察し自分の言葉やモデル図で表現する活動を行う。考察の検討など、理科の見方・考え方を働かせ、少人数で協働して問題解決する活動を増やす。	生徒が明らかにしたくなる課題や具体物を提示し、学んだことが日常生活でどのように活用されているか紹介する。また、学習支援としての足かけを行い、学びを振り返る機会を設けてメタ認知を促し、「できた」「気づけた」の体験を個々に与える。

### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グラフを作成する時間を増やしていく。具体的には、定期考査やワークなどで演習の機会を増やしていく。また、授業でも繰り返し既習事項について触れ、関連づけて学習を進めていく。	「粒子」「エネルギー」に関する学習では、授業内で理解があまり進まない時にはスモールステップなどを設ける。また、相手に学習した内容を説明する場面を増やし、理解した内容をアウトプットし活用できる場を増やしていく。	授業内で身近な事柄につながっている事例を紹介し、さらに自分で学習事項を拓げて考えさせる習慣をつけていく。また、その学習を拓げた生徒の内容を取り上げながら、学習の拓がりに対する面白さを感じさせられるような授業展開を行う。



## 令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・2学期に行った合唱コンクールでは、各クラス生き生きと表現することができた。
- ・歌唱や鑑賞において、歌い方の工夫や感じたことについて、自分の言葉で説明することができた。全員で合わせて歌う楽しさ・感動を味わいながら演奏できた。

#### (2) 課題

- ・表現活動の時間を最小限に留めながら、技能を高め、豊かな表現ができるようにする。
- ・鑑賞分野において音楽の諸要素を分析する力を向上させる。

### 2 昨年度の観点別分析

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・速度や強弱など、楽譜に記載されている基本的な音楽用語について理解できる。音符の名前や長さ、音の高さなど、読譜力には個人差が見られる。</li> <li>・歌唱の技能は、発声と音程の習得に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、楽曲の構成と曲想を捉える学習を行っている。個人で分析することは、少し難しい状況である。</li> <li>・鑑賞では、知覚・感受を関連させて楽曲を捉えるよう学習をしている。音楽的特徴と感覚的に感じ取ったこととの関連を分析しながら鑑賞できると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、意欲をもって取り組もうとしている生徒が多数見られるが、中には集中力の低下が著しい生徒もいる。パート練習等の進め方を定着させる必要がある。</li> <li>・鑑賞や楽曲分析の学習では、板書を写す活動をきちんと行っている。</li> </ul>

#### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の分析では、曲想をテクスチャやリズムなどの音楽的要素の変化から捉えることができる。</li> <li>・歌唱の技能は、ほとんどの生徒が正しい音程で歌うことができているが、一部の生徒は音程をとることが難しい。響きのある声で歌うための発声には課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現分野において楽曲分析での知識をもとに自分なりに曲想を捉え、どのように表現すると良いか、考えることができる。自分なりの表現をするために、技能との関連を考えていけるとさらに良い。</li> <li>・鑑賞分野において知覚・感受を関連させて楽曲を捉えることのできる生徒はいるが、まだ難しい生徒も多数見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の場面では、意欲をもって取り組もうとしている生徒が多数見られるが、自信のなさが見られるときもある。パート練習で自信を付けさせ、仲間とともに歌う楽しさを感じながら歌えるようにしたい。</li> <li>・鑑賞分野では、板書以外にも必要な情報を自ら書き留めるなど、主体的に学習に取り組もうとしている。</li> </ul>

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲分析では、歌詞、強弱、曲想の関わりを考えたり、作曲者の意図と自分の考えを比較したりしながら、楽曲のよさを感じ取ることができる生徒が多く見られる。</li> <li>・歌唱の技能は、正しい音程で歌うことができる生徒が多い。響きのある声で歌うための発声には課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現分野において、歌詞と曲想の関わりを学習をし、歌うだけでなく内容をよく理解することができる。自らの知識をもとに分析を進めていけるとさらに良い。</li> <li>・鑑賞分野において、知覚・感受を関連させて楽曲を捉えることのできる生徒が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の場面では、積極性のある女子生徒の割合がいささか少ない状態である。パート練習を経て、リーダーを中心に歌う楽しさを感じながら歌えるようにしたい。</li> <li>・鑑賞分野では、板書以外にも必要な情報を自ら書き留めるなど、主体的に学習に取り組む生徒が多い。</li> </ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽用語は、楽曲の分析や歌唱を通して繰り返し学習していくことで、多くの生徒が基本的知識を定着できるようにする。</li> <li>・歌唱の技能については、2学期以降にパート練習を多く取り入れ、小集団の活動で自信をもたせ、響きのある発声ができることを目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的特徴を捉えるために音程、リズム、テクスチャ等の音楽的要素を知識として学習し、思考を広げていけるように支援する。また、友達の見解を参考にし、自分の考えに生かすよう助言する。</li> <li>・表現分野において、フレーズの特徴など感受したことの音楽的理由を探る活動を多く取り入れ、表現の工夫について考えていけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の場面では、パート練習の進め方を定着させ、リーダーだけでなくそれぞれが意見を出し、意欲をもって練習できるようにする。</li> <li>・鑑賞や楽曲分析の学習では、板書以外にも必要な情報を書き留めるよう促す。</li> </ul>

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲分析では、音楽の諸要素から曲想を捉える学習を積み重ね、より主体的に発想できるようにする。</li> <li>・歌唱の授業では、腹式呼吸や頭声発声を常に意識して発声するよう促す。良い響きで歌う生徒を誉め、模倣させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫について考えた内容を技能と関連させて学習する機会を増やす。</li> <li>・知覚・感受を関連させて楽曲を捉える学習を繰り返す。個々の生徒のワークシートの内容をクラス全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の場面では、パートリーダーの育成を図り、良い集団の中で活動する楽しさや充実感を大切にする授業づくりをする。</li> <li>・鑑賞では、楽曲に興味・関心がもてるよう導入を工夫し、学習のまとめの際に曲のよさを感じ取ることができるようにする。</li> </ul>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・歌唱、鑑賞ともに楽曲について自分の考えがもてるように、楽曲の知識を習得させ、作曲者の意図と自分の考えを比較できるようにする。</p> <p>・歌唱の授業では、腹式呼吸や頭声発声を常に意識して発声するよう促す。良い響きで歌う生徒を誉め、模倣させる。より生徒が主体的に取り組めるよう支援する。</p>	<p>・知識の応用し表現の工夫について考えたことを小グループやクラス全体で共有し、内容を深められるよう支援する。</p> <p>・鑑賞分野において知覚・感受を関連させて楽曲を捉えるとともに、音楽理論として知識と関連させて題材を提示する。</p>	<p>・歌唱の場面では、パートリーダーが中心となって進められるよう支援する。生徒の主体的な取り組みの中で互いに学び合える雰囲気大切にす。</p> <p>・鑑賞分野では、引き続き主体的な取り組みができるよう促す。</p>

## 令和5年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・区展や若木祭のみならず、校内で生徒の作品展示を積極的に行い、他に関心を持たせ、お互いの個性を認め合える環境作りを行うことができた。
- ・書画カメラのみならず、ICT を利用した効果的な授業展開の工夫をさらに模索することができた。

#### (2) 課題

- ・ICT の効果的な活用方法を模索し、デジタルと紙ベースの適した方法での使い分けやツールの理解を深める。
- ・生徒の実態や個別に適した課題を設定し、生徒がねらいを基に見通しを持って課題に取り組める環境作りを行う。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校時に習った基礎的な知識を確認し、表現の幅をさらに広げるために、多くの素材や道具に触れさせ、習得させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発想を大事にしつつ、さらにより良いものにする為に、個々にあった声かけを行う。</li> <li>・鑑賞を深めるために、言葉として具体的に表現できるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品を提示するなど課題導入時の授業展開の工夫を行う。</li> <li>・振り返りシートを活用させ、自分を振り返り、次への課題につなげていく習慣をつけさせていく。</li> </ul>

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで習得したものを深めながら、新たな素材や道具に触れさせ、それを応用する能力を養わせる。</li> <li>・パワーポイントを作成する等、ICT の活用を行い、わかりやすく伝える工夫を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現方法から生徒自身が選択し、試行錯誤ができる授業を行う。</li> <li>・形・色彩・構成などに意識を向けさせ、アイデアスケッチや言葉などで整理する活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを最後まで持続させ、創意工夫していけるような声かけを行う。</li> <li>・創作の意欲を高めるために、ICT を活用するなど相互の作品鑑賞を取り入れる。</li> </ul>

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって表現活動できるように、時間を意識して計画的に制作に取り組ませる。</li> <li>・今まで習得したものを応用させ、新たな表現につなげていけるような活動の振り返りや提示を工夫して取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の取り巻く環境や自分の考えを振り返りながら、自分の思いを表現していけるように、ワークシートを工夫する。</li> <li>・様々な表現方法や作者の思いを深めていけるような鑑賞時間を多く取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作途中にお互いの作品を見合う時間を設けることで、自己の作品を客観視しながら向上心高めさせる。また自分の思いを表現することの喜びや楽しみを見いだせるような声かけを行う。</li> </ul>

# 令和5年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・全単元で学習カードを用い、基礎知識の習得や技能向上に繋がる振り返りに活用することができた。
- ・体力と持久力の向上を目指し、2つの学年で駅伝大会を実施した。それに向け、生徒主体の取り組み場面が増え、また長い距離を走ることへの抵抗がやや薄れてきた。
- ・投力に関して、ハンドボールやソフトボールなど投球動作を必要とする種目を通し、正しい動作の指導や確認ができた。

### (2) 課題

- ・令和4年度実施した東京都体力テストに関して、1学年(現2年)は男女ともに握力、長座体前屈、反復横跳び、ハンドボール投げ、2学年(現3年)は男子：持久走以外、女子：握力、上体起こし、ハンドボール投げに課題が見られた。一昨年度の成果から、各種目の学習の中で基本運動に繋がる正しい体の動かし方や、必要な体力、筋力が鍛えられる補強運動を取り入れており、今年度の体力テストの結果を見て今後さらに検討していきたい。
- ・自分や相手の動きを見て、改善点やつまづきを見つけ、相手に伝わる具体的な言葉を用い表現することが苦手な生徒が多い。アドバイス活動を多く設定し、考え、実行、振り返りを行い成長に繋げる必要がある。また、教師が指導する際も端的な説明を心がけ、生徒の活動時間を多く確保していく。

## 2 観点別分析

### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で話した内容を理解している部分は多いが、記憶しておくことが課題である。</li> <li>・体力・運動能力は総括すると各種目で全国平均より低い。球技など様々なスポーツに取り組みせ、将来スポーツに積極的に行える土台を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を解決しようと工夫する試みについて、考え、行動する態度が低いと感じる。また、自分の考えを伝えることにも課題を感じる。</li> <li>・個に応じて、道筋を考えた課題解決の方策を考えていくことや個別指導、教え合いの機会を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健の場面では、ポイントをまとめ記述ができる、発言を積極的に行えるなど生徒の2極化が顕著に表れている。</li> <li>・体育の場面では、苦手な生徒においてはポイントを明確に示すことで「わかった・できた」と感じさせ、積極的に運動に親しむ環境づくりを行う必要がある。</li> </ul>

### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力に応じた技能向上を目指すことができる。</li> <li>・持久力は全国平均よりも高い。</li> <li>・男女ともに柔軟性と投力に課題があり、筋力に加えて物を遠くまで飛ばすための身体の使い方を正しく身に付け、打つ動作へと繋げていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ動くだけでなく合理的な身体の使い方について理解し活動することで技能習得や他者の記録を伸ばす力を身に付けることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良いプレーや発表を見て学び合おうとする生徒が多い。</li> <li>・授業に早くやってきて自主練など取り組む生が多い。</li> <li>・運動場面ではほとんどの生徒が活動的だが、準備や片付け話し合い活動では二極化が見られる。</li> </ul>

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容とも必要な知識を習得し、技能の高まりを目指すことができる。男女共に持久力の向上と男子の短距離走のレベルアップが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーを理解し、その範囲内で技能の習得に向けて工夫し、積極的に表現活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良いプレーや発表を見て学び合おうとする生徒が多い。</li> <li>・自己の課題を把握し解決に向けた取り組みを行おうとしている。</li> </ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を身に付けるためには、私生活と関連付けて理解しやすく指導を行っていく必要がある。</li> <li>・技能に関しては、指導の際技のポイントを明確にしていく。また、客観的に自分の演技を見ることができるようタブレットを使用して理解を深めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論述やレポートの作成、発表を通じて、自分の考えを伝える。</li> <li>・グループでの話し合いを通じて他者理解に努め、まとめ、表現していく。</li> <li>・考え方がわからない場合は個別に指導を行い、サポートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の自分の力を生かしながら、課題を見つけその解決にむけての練習や学習を考えていくという学習過程と生徒一人一人に身に付けてほしい力をしっかりと教え込んでいき、その上で自主的に学び方を身に付けていくという学習過程とを実態に合わせ取り入れていく。</li> </ul>

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボールやラケット種目で打つ動作を学ぶ前に、投フォームについて学び、そこから打つ動作に繋がることを理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の学習カードの振り返りやペア活動を通して自己の課題を発見し、その解決に向けて工夫し、積極的に表現活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面に配慮し、可能な限り教師からの指示で動く場面を減らしていく。生徒自身が周りを見て、今自身がどうすればより良くなるか考え行動する習慣をつける。</li> </ul>

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの課題を把握できるような支援を行い、個人の能力を伸ばしていくことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTや学習カード等を活用し、課題解決の方策を工夫できるように多くの支援を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いを積極的に導入し、生徒が主体となって学習活動に取り組むことができる環境をつくる。</li> </ul>

## 令和5年度 技術家庭科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・タブレットを用いて課題提出を工夫し、調べ学習で深い学びを行うことができた。
- ・家庭で取り組むことができる課題の提示など、家庭で活動する場を設定できた。

#### (2) 課題

- ・積極的に授業に取り組む環境を整えることができたが、問題解決能力を高めるため、生徒同士（グループワーク）での活動を増やすことが課題である。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(技) 木材加工では、平面から立体をイメージする力を身に付けられるよう課題を検討し、作品製作の手順を理解させる。</p> <p>(家) 書画カメラ・視聴覚教材・Web 見本等わかりやすい授業をさらに工夫する。</p>	<p>(技) 製作の単元のなかで、実習内容を深く思考する機会をつくとともに、生徒同士で活動する場を設ける。</p> <p>(家) 衣服購入のポイントや、住まいの安全等の内容で思考判断につながる教材や発問を工夫するとともに、グループワークを設定する。</p>	<p>(技) 授業時間内に、説明・実習・片づけを行い、実習の時間規律を確立する。</p> <p>(家) 作品製作では時間内でより良いものを効率よく製作させる。提出物を確実に出させる。学習内容に興味関心を持たせる工夫をする。</p>

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(技) 電気の学習を通して、家庭でも安全に電気を利用することができるように理解させる。ラジオの製作を通して、知識と技術の定着を図る。</p> <p>(家) 書画カメラ・実物見本・視聴覚教材・Web 教材等を活用しわかりやすい授業をさらに工夫する。タブレット使用で関心を持って知識を深める工夫をする。</p>	<p>(技) ラジオ製作の後で、増幅回路について学習し、実際の作業にあった内容の学習をすることで、深く思考をする機会をつくる。</p> <p>(家) 知識を生活の中で活用し、深く思考をする機会をつくる。テーマを決めて実習に取り組むなど工夫をする</p>	<p>(技) 授業時間内に、説明・実習・片づけを行い、実習の時間規律を確立する。</p> <p>(家) クロムブック使用を取り入れ、積極的に生活に活かせる学習になるように工夫する。集中して作業にT理組む用に声をかける。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(技) キーホルダーの製作に合わせて、金属加工の方法を覚えるとともに、ICTを積極的に使い、知識の定着を図る。</p> <p>(家) 幼児との関わりについて、視聴覚教材・書画カメラ・見本等でわかりやすい授業や、技能習得の工夫をする。</p>	<p>(技) プログラム制作の課題の処理を行わせ、情報の技術を通して、課題を解決する力を育成する。</p> <p>(家) おもちゃ製作や幼児の遊び体験などを通して習得した知識と照らし合わせて深く思考をする機会をつくる。</p>	<p>(技) グループワークを積極的に行わせて、主体的に授業に参加させ、意欲向上を図っていく。</p> <p>(家) 作品製作やノートの活用などを通して指導し、幼児に関連ある調理実習も加え、積極的に幼児を理解する意識を高めるなどの工夫をする。</p>



# 令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・授業の始めに授業プランを伝えることにより、見通しをもった学習ができるようになった。
- ・Q & A等の反復練習をすることにより、話すスキルが向上し、即興で話す際のバリエーションが身に付いてきた。

### (2) 課題

- ・即興性のある話題について話すことに、未だ苦手意識を持った生徒が多いため、授業内の活動に積極的に取り入れていく。
- ・英文を読んで、内容を正確に把握したり、質問に答えたりする力を育成する。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	多くの項目において、平均正答率が区や全国の平均を上回っている。英文を完成させる問題で正答率が低い箇所があったため、改善するために意識して指導にあたる。		
第2学年	多くの項目において、平均正答率が全国の平均を上回っているが、文法の正確さという点で一部正答率が低い箇所が見られる。今後は文法の正確さについて厳しくする場面を設けて指導にあたる。	全ての項目において、平均正答率が区や全国の平均を上回っている。記述問題に関して正答率が低い箇所があったため、意識して指導にあたる。  (第1学年時)	
第3学年	多くの項目において、平均正答率が目標値よりも上回っているが、全国平均、区平均には僅かに足りてない部分があった。特に語形・語法の問題で得点が伸びていないため、単語テストなどで語彙力を強化していく。	多くの項目において、平均正答率が区や全国の平均を上回っていた。語形・語法の知識・理解に関する問題の正答率が低かったため、語彙や文法事項については意識しながら指導にあたる。  (第2学年時)	全ての項目において、平均正答率が区や全国の平均を上回っている。来年度は継続、そして少しでも上回れるように指導に努めていく。  (第1学年時)

## (2) 分析 (観点別)

### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語やアルファベットに関する問題では平均を大きく上回っている。日常会話の理解についての問題で目標値を下回る部分があった。	英作文の問題が全体的に平均を下回り、苦手な部分となっている。 また会話を聞いて推測する部分も苦手意識がある。	英作文の問題の正答率が低くなっている。自分の名前以外の事柄について自己紹介の文を書く問題での正答率が低く、知識を活用することを苦手とする生徒が多いと考えられる。

### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な語形・語法について理解ができていない、また英文を読み取る問題に課題に関しても課題がある。	記述式の解答に関して、大きな成長が見られる。自分の得意なことなど日常的な話題について、気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができています。	該当する問題で正答率が10%程度上昇していることから外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手や読み手に配慮してコミュニケーションがとれるようになっているといえる。

### ③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な語形・語法(動詞の形・過去進行形・比較など)の理解があまりできておらず、定着していない。	記述式の解答に関して、答えた生徒の正答率は高いが、英作文に苦手意識を持った生徒が増えたように思う。ただ、内容把握については、点数に結びついている。	主体的に学習に取り組んでいる生徒の数値が昨年度よりも少し下がってしまっている。英作文に対する苦手意識が反映されたものと思われる。

## 3 授業改善のポイント (観点別)

### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動として単語や熟語を用いたビンゴや、Q&Aシートを使用した定型文の反復練習を取り入れ、基礎的な学力を定着させる工夫に努める。またALTと協力して、日常的に英語を聴く機会を設定する。	ALTとの連携を図りながら、自分の考えや感想を伝え合うなど、即興で英語のやり取りをする能力の向上に努める。また学習した知識を活用して英文を書くトレーニングを積み重ねていく。	間違いを恐れずに関心のある事柄について、簡単な文や語句を用いて書くことができるよう、ライティングの機会を増やす。苦手意識を持っている生徒に関しては個別でサポートをする。

### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法事項については、副教材のワークに取り組む時間を増やす。英文を読み取る問題については、初見の文章を用いて読解の練習にあたる。	帯活動の中で書く活動を取り入れ、さらなる技術向上を図る。具体的かつまとまりのある文章が書けるように指導にあたる。	引き続き、相手を意識したコミュニケーションを充実させる。また、活動の機会を増やすことで、生徒の主体性を高めていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法事項の説明を丁寧に行ったり、反復練習を多くしたりして、基礎的な学力の向上に努めていく。また、単語テスト等を利用して、語彙力を養っていく。	引き続き、自分の考えを表現して英文を書いたり、話したりする活動を多く行う。また、ALTとの連携を図り、即興性のある会話の練習をしていく。	生徒が興味・関心を持てる教材・題材を準備して、英語に対する関心・意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度を向上させていく。